「ＤＮＡ多型」投稿原稿の作成について（発表者の方へ）

　本書面に示す注意事項及び印刷例、並びに学会ホームページ（http://dnapol.org/）で公開している投稿規定を参考にして、 「印刷した原稿および著者連絡先」、「原稿および著者連絡先をテキスト変換して保存したCD-R」、「版権の委譲承諾書」および「利益相反に関するCOI」を、編集委員長の竹下治男先生まで郵送してください。

＜著者連絡先＞

郵便番号・住所：

氏名・所属名：

TEL番号・FAX番号・Ｅ－mailアドレス ：

＜原稿の様式＞

演題番号と演題名(改行)

所属(改行)

氏名(改行)

所属(改行)

氏名(改行)　(所属と氏名は所属毎に記載する)

(改行)

１．はじめに(改行)

(改行)

２．材料と方法(改行)

(改行)

３．結果(改行)

(改行)

４．考察(改行)

(改行)

(謝辞(改行)

(改行))

文献(改行)

(改行)

英文題名(改行)

英文氏名(カンマ)(半角空白)・・・英文氏名(ピリオド) (半角空白)英文所属(カンマ)(半角空白)・・・英文所属(ピリオド) (改行)

(改行)

図の説明(改行)

表の説明

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\* \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\* \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\* \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

上記の様式に則って作成をお願いします。

図、表はそのまま取り込みますので、鮮明なものをお願いします。

また、本文内に入れずに、別に印刷して下さい。

原稿作成上の注意事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 注 意 事 項 | 例 |
| 演題番号 | 1桁は全角。2桁は半角。ピリオドは全角 | １．あいうえお  12. あいうえお |
| 所　　属 | 正式名称で記載 | 久留米大学医学部法医学法医学・人類遺伝学講座 |
| 氏　　名 | 4文字以下の場合：姓と名の間に全角空白を入れて5文字にする  5文字以上の場合：姓と名の間に空白を入れない | 鈴木　　太  鈴木　太郎  鈴木一太郎 |
| 氏名と  氏名の間 | 全角空白を入れる | 鈴木　太郎、田中　次郎 |
| 大項目 | 頭の数字およびピリオドは全角 | １．あいうえお |
| 中項目 | 両括弧付き数字および括弧は半角 | (1)あいうえお |
| 小項目 | 片括弧付き数字および括弧は半角 | 1)あいうえお |
| 文節の始め  文節の終わり | 始め：全角空白1文字  終わり：改行 | あいうえお |
| 大項目間  中小項目間 | 大項目間：１行あける  中小項目間：行をあけない |  |
| 文献の数字 | 1桁は全角。2桁は半角。括弧は全角 | １）あいうえお  11）かきくけこ |
| 文献の英文 | 半角 | 12）abcde |
| 英文題名･氏名  および所属 | 半角 |  |
| 所属が複数の  場合 | 英文氏名の後ろに＊1（半角上付き）および  英文所属の前に＊1（半角上付き） | Taro Suzuki\*1  \*1National…Science |

原稿印刷例

テキストに変換した際に変化した部分は、印を付けて下さい。

（以下　例文）

23．核rRNA遺伝子領域を用いたアコヤガイ属における類縁関係の推定

独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所

正岡　哲治

独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所

小林　敬典

１．はじめに

　海産二枚貝のアコヤガイは・・・分類されている。しかし，各国産アコヤガイ類の類縁関係は・・・ほとんどない。

そこで，本研究では・・・核rRNA遺伝子領域の塩基配列情報から・・・類縁関係を推定した。

２．材料と方法

(1)試料

　アコヤガイは・・・産の成貝および稚貝・・・個体用いた。

(2)ＰＣＲの条件　　　　　　　　　テキストに変換すると下付でなくなるので黄色く塗る。

　サンプルＤＮＡは・・・用いた。

　ＰＣＲ反応液は，10mM Tris-HCl(pH8.3), 50mM KCl, 2mM MgCl　2, 200　μM dNTP,

とした。

　また，ＰＣＲ反応は・・・とした。　テキストに変換すると文字化けするので黄色く塗る。

３．結果

　アコヤガイ属の・・・を決定した。

４．考察

　今回得られた結果と鈴木ら7) が報告した・・・

と考えられる。

　　　　　　　　　テキストに変換すると上付きでなくなるので黄色く塗る。

文献

１）Li JC: Species identification by PCR. J Forens Sci,37: 125-137, 1992.

　　　│

10）鈴木太郎：ＡＦＬＰ法による遺伝子型判定．日法医誌，54：220-231，2000.

図１　ｒＲＮＡ遺伝子領域を用いて作成した系統樹

表１　材料の産地